地域主体の取組に向けて

「やまなし歴史の道ツーリズム推進業務（令和2・3年度）」では、
① モデルとなる道の選定と魅力的なストーリーをもったモデルコースの設定
② 案内ガイドの養成、ファムトリップ・モニターツアーの実施
③ 案内板・案内ツール（ガイドアプリ）の整備
④ 周遊グッズの解説（大判マップ）付き御朱印帳の作成
⑤ プロモーションのための動画の作成と旅行雑誌への記事掲載
⑥ 本事業で得られた知見やノウハウ等をとりまとめた手引き（本誌）の作成
に取り組んできました。

昨今、地域の魅力の磨き上げや環境整備、人材育成など、様々な取組が全国で実践されていますが、取組を進める際には、時代に応じて変化する観光客の行動（観光行動）には、特に注目する必要があります。

従来からの代表的な観光行動としては、団体旅行の多くが当てはまる周遊観光があります。周遊観光では、大人数で地域が誇る観光地を訪れて、効率よく観光資源を鑑賞し、周辺に整備された観光施設での飲食や土産品の購入を楽しみ、次の観光地に向かいます。特に、観光資源の視覚的な美しさや、大きさ・迫力、古さ、珍しさ、地域らしさなどが重視されるため、観光資源と向き合う場の整備や、簡潔な案内ツールの整備、無料トイレなど、より快適、・安全に観光を楽しむことができるようなサービス施設などの整備が重要となります。

一方で、近年は、ソーシャルメディアの普及や、インターネット上だけで旅行商品を販売しているOTA（オーティーエー：Online Travel Agent）の利用拡大、旅行目的や嗜好の多様化等を背景に、旅行の個人化が進んでいます。2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、少人数での旅行への需要がより一層高まっています。

こうした少人数での旅行を中心に、SIT（エスアイティー:Special Interest Tour）とよばれるテーマ性・趣味性の高い目的型の観光行動が注目されています。目的型の観光行動では、「観光資源のことをより深く知りたい」、「地域の歴史や生活文化、それらを育んできた自然環境についても学びたい」、「幾つもの観光対象を見て回るより、一つの地域にとどまってじっくりと地域の魅力を感じたい」、「車を利用して駆け足で効率よく進むのもいいけど、歩くスピード感で地域の雰囲気を体感したい」、「時には、そこに暮らす人たちと触れ合いたい」といった旅の楽しみ方が特徴となっています。従来の観光資源以外の素朴な地域資源にも活用可能性があること、また、地域に潜在する深い魅力に惹かれることによる滞在・滞留時間の増大やリピーター化が見込めることなどから、地域関係者からの関心も高まっています。

こうした観光行動を志向する旅行者を取り込むためには、地域に潜在する観光資源を洗い出し、磨き上げ、それらを組み合わせたストーリーを作り、楽しみ方や滞在の仕方を提案することが重要です。日常生活エリアを歩いたり、住民らと会話を交わしたり、対象資源に直に触れたりといった体験を取り入れることも効果的で、来訪者と地域の諸事情との距離感、地域の文化や経済への貢献とのバランスも大切です。このため、目的型の観光行動に対応する商品の造成は、地域の内実に精通した人たちの協力が必要であり、そのためには地域が主体性をもって、かつ持続的に取り組むことが不可欠です。

そこで、ここでは、やまなし歴史の道ツーリズム推進業務を通して得られた知見などをもとに、「やまなし歴史の道」の誘客魅力の源泉である資源の磨き上げ方や、商品化に向けた基本的な考え方や実践に向けたヒントを整理しました。

(1) 協働体制の構築

「やまなし歴史の道ツーリズム」の取組を継続していくには、地域主体の取組が不可欠です。加えて、行政の観光担当部署や観光事業者らに限らず、「やまなし歴史の道」に関する知見が豊富な関連資源の保全と活用を担当する教育委員会の文化財担当部署、地域資源との関わりの深い地元の有識者、事業者、関係者らとの連携が重要になります。こうした地域内関係者らが知見を持ち寄り、観光振興の方向性を共有し、具体的な事業活動を実施する協働体制を描いた上で、必要に応じて外部の専門家・有識者らの知見を効果的に活用するような仕組みを作ります。ここで、協働体制が効果的に実動するには、コーディネーター・地域マネージャー、すなわち全体を取りまとめ、打合せの設定・進行や関連書類の作成などを行う事務局機能が重要になります。

取組の初期は、地元行政が中心となった協働体制となることが多いです。観光需要を増大させ、ガイド業などの観光関連事業を活性化していきながら、民間事業者・団体を主体として、自走・持続できる協働体制を作っていくことが理想です。

(2) 観光商品の造成

観光商品（コース、ツアーなど）を造成していくことは、料理をすることに当てはめて考えることが出来ます。観光商品の造成のためには、まずは、訪問客が「やまなし歴史の道」を探訪するときに興味・魅力を感じ、楽しむもとになる観光資源を発掘・整理していくことから始めます。これは料理に当てはめれば、素材を調達・整理することです。

続いて、それぞれの観光資源の付加価値を高めるために磨き上げを行います。これは料理で言えば、素材に味を付けたり、調理したりすることです。

そして、磨き上げられた資源を組み合わせたストーリー展開を考えて、モデルコースを検討します。モデルコースは、訪問客に対する具体的な観光行動の提示であり、いわゆる観光商品（旅行会社が企画・催行するような狭義の旅行商品も含めます）に相当するものです。このストーリー展開の検討が、調理された素材が盛り付けられた料理となります。

①観光資源の発掘・整理（素材の調達・整理）

「やまなし歴史の道」の面白さを構成する素材や、道沿いにある既に活用中の観光資源を列挙して、観光対象となりうる地域資源を整理します。神社や仏閣などの建築物、特徴的な自然環境や風景など目に入るものだけでなく、歴史上のエピソードや、伝承されてきた生活文化なども素材となります。

既存資料の整理にとどまらず、実際に歩き回りながら気になるものを見つけたり、地域住民らと話したりする中からこれまで知らなかった事柄に気づいたりすることもあります。地元の文化財担当職員や学芸員、史談会、地元の古老などに話を聞く（協力を得る）ことも効果的です。こうした作業を「地域の宝探し」と表現することもあります。

②観光資源の磨き上げ（素材の味付け・調理）

観光資源の発掘・整理の次は、抽出した各資源の意味合いを整理して、解説内容を深掘りします。いわゆる「宝の原石の磨き上げ」です。

身近に出回っている既存資料（パンフレットなど）に書かれている情報が基本となりますが、学術的な専門書、研究論文などにも目を通し、客観的な情報を再確認すると共に、研究を通して知り得た専門情報、複数の見解などをまとめます。訪問客に伝える際は、こうした知識を淡々と伝えるだけでは興味がわかないので、事象の要因、異説、関連するエピソードなども整理します。さらに、そのことにゆかりのある人や、近くに住む人などにインタビューをすることによって、話題を広める工夫をするとよいでしょう。